

# 2020

# レース結果報告書

## アジアロードレース選手権 第1戦



# **DOG FIGHT R**

株式会社ドッグファイトレーシング

# アジア選手権・レース結果

## Race

アジア選手権フル参戦をスタートした豊島怜。チーム代表の室井はAP250クラスへのジョイント参戦や、SS600&ST1000クラスへのスポット参戦はありましたが、チームとしてのフル参戦は初のチャレンジ。

事前準備や各種手続きにも大変苦勞しましたが無事に開幕を迎えることが出来ました。

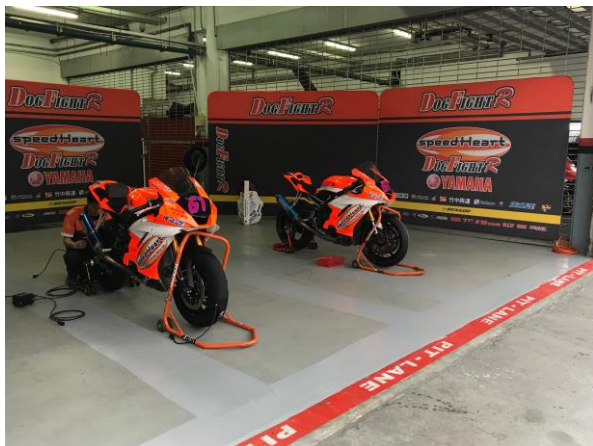
豊島はかつて日本チーム代表として国別対抗レースなどで海外参戦の経験はありましたが、本格的な参戦は今回が初。鈴鹿以外のコースは走った事も無いサーキットの連続となりますが、来期を見据えてしっかりとデータを取りながらチャレンジしてゆきたいと思います。

そして迎えた開幕戦はマレーシアのセパンサーキット。日本の気候と一転して真夏の陽気の中で事前テストを2日間行い、そのまま週末に開幕戦といったハードスケジュールで行われました。そのレース結果をご報告いたします。

名トンベイ：アジア選手権 第1戦 マレーシア大会(セパン国際サーキット)

開催日：2020年3月6-8日

果結スーレ：SS600 #67 豊島怜 予選13位 決勝1-12位 決勝2-リタイヤ



# Pre-Season Test

## *DAY1 (3/3)*

初参戦のため余裕をもって日曜日と月曜日の2日間を使い機材の搬入・ピット設営・マシン整備を行い、火曜日から始まるテストの準備を進めました。また初めてのコースの為コースチェックも予定していましたが、終日4輪の走行となっていたためコースチェックをすることが出来ないままテスト初日を迎えました。マシンの基本セットは鈴鹿サーキットの車体セットからリヤのスプリングレートを1ランク下げてスタート。前後のバネはF9.5n、R100nからの走り出しでした。

初日の目標は去年の記録タイムの2分9秒8の3秒落ちの2分12秒代。午前1本目のスタート時は路面温度も30度台と低めで、気温も快適な状況でしたが、2本目の昼の走行では気温は一気に上昇して35度付近に上昇。路面温度も60度近くに跳ね上がりセパンらしい環境になりました。豊島は先ずはコースに慣れること、新しい車体のフィーリングを確認することに徹して走り込み。

単独で周回を重ねながら2分14秒台を記録して初日を終わりました。

## *DAY2 (3/4)*

2日目からはマシンセットに変更を加えながらの走り込みです。前日の感触やデータを基にバネレート・車体姿勢・ファイナルなど様々な変更をテスト。豊島も徐々にペースを上げて来て、走るごとにタイムアップ。まだまだマシンはしっかりこないものの2分12秒台までタイムを詰め去年の記録タイムの3秒内まで縮めてきました。しかし上位陣は去年のマレーシアラウンドでセッショントップタイムを記録したこともある地元のノロディン選手や、その他トップ4人が地元マレーシアライダーが独占する状況で、早くも去年の記録タイムを超える仕上がりを見せていました。これに対して豊島は区間によっては1秒以上も離されるほど大きな差が出来てしまいます。その攻略に様々なトライを実施しますがなかなか思うようにタイムアップできず、苦しみながら2日間のテストを終わりました。



# Free Practice

## Free-Practice (3/6)

3/5日は走行無しのインターバルをとって、金曜日は3本のフリープラクティスが行われます。この日も車体セットを見直し、特にフロント周りの運動性を上げるために油面も見直してコースイン。好感触を得た豊島はタイムをさらに更新して2分11秒台に突入。続く昼の走行のフリープラクティス2では路面温度が上昇して、ほとんどのライダーがタイム更新できない中、中古タイヤのまま走りこんだ豊島は再び2分11秒台を記録してトップとの差を2秒以内に縮めることが出来ました。ここまでは順調にセットアップが詰まってきたかと思っていたのですが、新品タイヤを履いてペースアップを図った最後のフリープラクティス3で豊島はタイムを伸ばすことが出来ませんでした。路面温度も昼よりも下がり決してコンディションが悪いわけではないけれど、これ以上ペースを上げることが出来ない頭打ちの状態になってしまったのです。アタック中には何度か地元ライダーの後ろにつく事も出来ましたが、コーナーで徐々に離され、苦手なセクター2、3の区間で一気に差が開いてしまいます。

「車体がまだしっくりこない。鈴鹿の時のように攻め切れない」豊島も走りながら色々工夫してマシンを操作したり、ラインを変えてみたりしますがペースを上げることが出来ないままフリープラクティスを終えました。



# Qualifying & Heart1

## *Qualifying (3/7)*

土曜日は予選と決勝のヒート1が行われ、予選時間40分の走行時間を使って車体セットを続けます。フロントの運動性を上げてワンランク上の走りが出来たものの、頭打ちとなった車体セットを進めるためにリヤに荷重を移して前後のバランスをとる方向で予選に臨みました。この方向性も感触は良好で更にセットを進めたところで豊島はコース会おうとしてしまいましたが、何とか無事にピットの戻ってきてリヤタイヤのみグリップの高いソフトタイヤに交換して再びコースイン。自己ベストは更新して2分11秒7までタイムを上げますが上位陣との差は再び2秒以上に広がってしまい総合順位は13位と沈んでしまいました。

## *Race • Heart-1 (3/7)*

予選のセットで車体は若干改善されましたが、まだまだ上位陣とは大きなスピード差があります。豊島もまだまだ自分の感覚で攻める事が出来ない状態でしたので、決勝は思い切って車体セットを変更して翌日のヒート2に掛ける作戦に出ました。これまでに徐々にペースが上がってきた豊島に対して従来とは逆の方向に大きくセットを変更して決勝レースに臨みました。

このセットの変更で豊島は攻めることが出来る感触が戻り戦闘開始です。オープニングラップを12番手と一つポジションを上げて通過。更に1コーナーで前を行くライダーに迫りプッシュした2コーナーでスリップ転倒を喫してしまいます。すぐにマシンを起こしてコースに復帰しますが最後尾に落ちてしまい10週の短いレースはそのまま12番手でチェッカーとなりました。



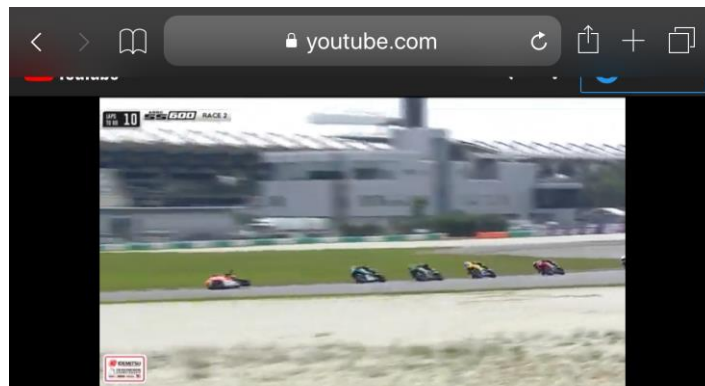
# Free & Heart2

## *Free-run (3/8)*

日曜日は決勝の午前中に15分のフリー走行があります。昨日大きく改善した車体に合わせてフロントのバネレートを下げる変更を加えて走行に臨みましたが、前夜に降った雨が残り路面は所々にウエットパッチが残る微妙なコンディション。タイムは上がりませんが車体の変更に良い部分と悪い部分を感じた豊島は決勝に向けての変更を決めて更に車体セットを変更して午後の決勝に臨みました。

## *Race • Heart-2 (3/8)*

第1戦の集大成、グリッドに並んだ豊島は車体の好感触を感じ始めていました。「いい感じですよ。その言葉の通り上々のスタートから1コーナー、2コーナーでポジションをアップして7番手に浮上。高速の3コーナーを過ぎた次はブレーキング勝負の4コーナー。ここで地元ライダーを抜いて6番手に浮上。目の前にトップ集団を見ながら勝負が出来ると確信した豊島はそのままペースを上げてついて行きますが続く右コーナーでスリップダウン。一気に上がったペースに合わせて寝かせすぎた為にグリップを失い転倒してしまったのです。レースはそのほかのライダーの転倒も相次いで発生していたため赤旗中断となり、豊島もマシンと共に戻ってきましたが損傷が激しく再開された決勝のグリッドに付く事が出来ずそのままリタイヤとなってしまいました。





# 豊島怜コメント

初戦のマレーシアは思うように事が運ぶことができず、結果を残すことができませんでした。

今回の開幕戦のみ、2日間の事前テストがありましたが、短い時間の中でライディングとセッティングをどこまで高いレベルに持っていけるかがこのウィークのポイントでした。全日本と同じような車体セットの進め方では全く通用せず、ウィークを通して様々なセッティングを試し、ようやく決勝で良いフィーリングのバイクを作る事ができました。次戦オーストラリアに向けて、ベースセットが見えてきたのでここからまた進めていきたいと思えます。

今回、初めてのコース攻略と並行して短時間の中で様々なセットを試して正解を導き出したことは今後の糧となる良い経験になりました。短い時間の中でもっと早くセットの方向性を導き出せたらと思う部分もありますが、始めから答えを知っていても何故そのセットが正解なのかという裏付けができないと思えます。そういった意味では、今回は悩みに悩んでやっとベースセットを導き出したのは良い経験と財産になったと思うので、必ず今後の糧になります。

また、自分自身、アジアのイコールコンディションの中で、ライディング面でも更なる成長が必要だと感じました。反省する点はしっかり反省し、次戦に向けての準備をしていきたいと思えます。

チーム関係者の皆様、スポンサー様、応援して下さいの皆様、ありがとうございました。

# 監督コメント

## Ofisyaru Comment

遂に海外での参戦活動がスタートしました。若手育成の中で成長してきた豊島怜に次のステージを考えた時に、国内に残りST1000への参戦と海外でのSS600の参戦の2つの選択肢がありました。そして決まったアジア選手権への2年計画。その初戦となる開幕戦に漕ぎつける為には様々な問題がありましたが、多くの協力者のおかげで何とかこの舞台に立つことが出来ました。初の海外は学ぶ事が多く、豊島もメカニックもこれまでの経験だけでは処理しきれない問題に立ち向かい貴重な経験を重ねております。

豊島のコメントにもあるように今は全てのことを伝えるよりも遠回りでも経験を積んでもらおうと思います。御支援頂いておりますスポンサー様や応援してくれているファンの皆様には満足頂けるようなご報告が出来ず心苦しいところではありますが、この苦勞が糧となり実を結ぶ時が絶対に来ると信じて精進して参りますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

ドッグファイトレーシング  
代表 室井秀明





# スポンサー

Sponsor

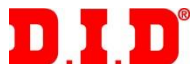
Sponsor



竹中興運



ご支援・ご協力を賜り誠に有難うございます。次戦も頑張ります！



# DOG FIGHT R

株式会社ドッグファイトレーシング  
代表 室井 秀明

〒271-0061

千葉県松戸市栄町西4-1195-4

TEL047-703-3030 / FAX047-308-1122



Thank you for reading to the end